

文化財保存活用地域計画（通称「地域計画」）とは？

坂井市では、令和元年度から3か年で「文化財保存活用地域計画」の策定に取り組んでいます。過疎化・少子高齢化等の社会状況の変化を背景に各地域の貴重な文化財の滅失・散逸等の防止が緊急の課題となる中、従来価値づけが明確でなかった未指定を含めた有形・無形の文化財をまちづくりに活かしつつ、文化財継承の担い手を確保し、文化財の専門家のみならず地域社会総がかりで取り組んでいくことのできる体制づくりを整備することが必要となっています。

地域計画は、地域に所在する未指定を含めた多様な文化財を総合的に調査・把握し、それらを適切に後世に継承するため、所有者や行政だけでなく民間団体をはじめ地域の皆さまの参画をいただきながら、積極的な保存・活用を推進することを目的に策定するものです。『地域計画かわら版』では、地域計画策定のうごきをお知らせしてまいります。

令和元年度はこんな調査を実施しました

■坂井市域における古墳の実態把握調査

地域計画の柱のひとつとなるのが、古墳時代の歴史文化です。令和元年度は、まず坂井市域の古墳の概況とその特質を把握するための調査を行いました。調査には花園大学（京都市）考古学研究室の協力を得て、現地踏査による把握と分布図の作成を行いました。

当市における古墳は、旧丸岡町域と旧三国町域に偏在しており、旧丸岡町域では、女形谷から六呂瀬山にかけての東部の山麓、低丘陵上に広範囲に帯状に広がっているのに対して、旧三国町域では雄島を挟んで南北に分かれて分布が見られません。丸岡では、国指定史跡であり、東日本の日本海側最大級の前方後円墳がある六呂瀬山古墳群が突出した存在で、福井平野をその支配下に置いた越前最高位の古墳ですが、その力を支え、坂井郡の地域の豊かさを背景に、山麓の古墳が広く展開したことがわかりました。

旧三国町域の古墳群には、日本海を強く意識した立地の梶古墳群、九頭竜川河口ににらみを利かせ、越前平野と海上交通の接点としての地域の重要性を伝える出世山古墳群その他の古墳群など、旧丸岡町域とは異なる特徴が見られます。また、椀貸山古墳に代表される横山古墳群があわら市域の数多くの古墳とともに継体天皇を輩出した当地域の力量と重要性を象徴する存在として厳然と存在しています。

これらの古墳の分布からは、当地域の豊かな経済力や日本海を通じての広大な地域間交渉の実態が読み取れ、越前、そして東日本の日本海側の覇者とそれを支えた有力者たちの墳墓と評価されます。今後の活用に関しては、まず六呂瀬山古墳群の整備と活用が優先され、旧三国町域では、すでに整備が進んでいる出世山古墳群の再整備や情報発信の必要性が指摘されています。九頭竜川流域地域と他地域との結節点としての重要性を踏まえ、市域全域のなかでの価値づけを行っていきます。



花園大学考古学研究室による現地踏査のようす

今回の調査結果は、3月6日に「2019年度古墳調査報告会」として鳴鹿まちづくり推進協議会の皆様のご協力により、鳴鹿コミュニティセンターで報告する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためいったん中止することとなりました。あらためて、皆さまにご報告し、意見交換の機会を設けたいと思います。

■坂井市全行政区を対象とした「おたから」調査

地域計画では、すでに指定や登録がされている文化財だけでなく、未指定の文化財や従来の文化財類型にとらわれないさまざまな歴史文化資源を把握し、計画のストーリーを描いてまいります。そこで令和元年度は、各地域にとって大切であり、次世代に継承していくべきと考えられる有形・無形の文化的所産（「おたから」）の掘り起こしを行うため、市内全行政区を対象にアンケート調査を実施しました。

調査では、以下の項目についてお聞きしました。

- ①地区の祭礼・伝承行事およびそれらと関連することから（自然・生業・食・地名・民話・人物等）
- ②上記以外で地区で大切にされているもの（歴史的建造物・風景・遺跡・自然環境・樹木等）

③歴史文化の継承のために、地区として今後積極的に取り組みたいことや課題

調査は令和元年11月から12月（区長交代時期のため令和2年1月から再依頼しました）にかけて実施し、丸岡町60（32.1%）・坂井町27（40.3%）・春江町35（47.3%）・三国町64（55.7%）の地区から回答をいただきました。

①祭礼・伝承行事

祭礼・伝承行事は丸岡89、坂井48、春江71、三国97の計305件が挙げられ、その多くが未指定の文化財でした。各地区に根ざした行事等の中には、市学芸員も初めて知るものもあり、今後は現地調査や聞き取りなどさらなる調査をすすめ、地域計画に反映していきたいと思います。

②祭礼・伝承行事以外の文化的所産

丸岡29、坂井5、春江20、三国29の計83件があげられ、建造物や樹木、御清水や歴史資料など幅広い文化的所産を把握することができました。中にはこれまで行政で刊行された調査報告書等には掲載されていないものの、今後文化財への指定や登録の候補となるようなものもあり、そうした文化財が地区の皆さんに大切にされていることはとても大きなことだと思います。まさに地域計画がめざす、地域ぐるみの文化財の保存活用のあり方のモデルとなることが期待されます。

③今後の抱負や課題

リーフレット等の作成による訪問者への周知や防災意識向上のための取り組み、まちづくり協議会との連携、若者や子どもたちの参加機会の増大などのほか、地域のお年寄りへの聞き取りや記録のデジタルデータ化などがあげられました。

この調査では、「おたから」というモノの掘り起こしだけでなく、歴史文化をいかした取り組みを始められようとしている方や、地区独自で文化的資源のマップや映像などをつくられている方等との出会いもありました。今後のワークショップなどの取り組みにつなげていきたいと思います。



まちづくり協議会の会合等にお伺いし、調査への協力をお願いをさせていただきました。

最後に、調査にご協力いただいた区長さんをはじめ各区の皆さま、各コミュニティセンターやまちづくり協議会の皆さまに、この場をお借りして御礼申し上げます。

■市内文化財所有者・管理者へのアンケート調査

市内の全文化財所有者および管理者に対し、以下の項目についてアンケート調査を実施しました。

- ①現在、文化財の保存・活用のためにに行っている取り組み
- ②観光への対応についての現状の取り組みや今後についての考え
- ③防災への対応についての現状の取り組みや今後についての考え
- ④今後の文化財の保存・活用の推進のために特に積極的に取り組みたいこと

調査は令和元年10月から11月にかけて実施し、丸岡町24（75.0%）、坂井町3（100%）、春江町14（100%）、三国町25（69.4%）の回答をいただきました。

現在の取り組みでは、まちづくり協議会などと連携して地域ぐるみでの活動をしている例も一部ありましたが、単独で取り組まれている文化財がほとんどで、地域との連携の必要性を指摘する声も複数見られました。また、「おたから調査」と同様、次世代への継承を危惧する声や情報発信の強化を課題とする声が多くありました。

観光に対しては丸岡城からの回遊性の欠如を指摘する声も複数あったほか、三国の寺院などでは観光対応は望まないという声も見られました。防災については、多くの文化財で火災や漏電対策が行われていますが、耐震への対応は費用負担が大きく難しいという声も少なからずありました。

こうした課題を踏まえ、今後の計画策定をすすめてまいります。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

—おわりに—

今号でお知らせした内容は、2月29日に開催を予定していた公開フォーラムで詳細をご報告する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため中止となりました。また、地域計画の策定プロセスでは、地域住民の皆さまにご参画いただきながら「おたから」の掘り起こしや計画への位置づけにつなげていくため、まちづくり協議会や学校等と連携して各地区でワークショップを実施していきたいと考えています。すでにいくつかの地区で実施に向けた準備をすすめておりますが、「ぜひこんなテーマでやってほしい」「うちの地区にはこんなおたからがあるよ」といったご意見やご提案をお待ちしております。ぜひお気軽にお声がけください。

坂井市文化財保存活用地域計画 かわら版 vol.1

発行 坂井市教育委員会文化課

TEL 0776-50-3164 Email bunka@city.fukui-sakai.lg.jp

編集 UDCS アーバンデザインセンター坂井

TEL 0776-50-3300 Email info@udcs.jp

2020年3月発行